

「東京おひさまベリー」の育苗・定植技術の改善

【研究概要】

仮植日および定植日が「東京おひさまベリー」の収量、品質に及ぼす影響について試験した。2021年8月下旬～9月下旬に3回に分けて仮植した苗を、それぞれ10月上旬～11月上旬に3回に分けて定植した。5月以降の収量は仮植日と定植日が早いほど多かった。とくに、10月上旬定植は他区の2倍の収量となった。収穫果数も仮植日や定植日が早いほど多くなった。1果重、果実硬度および酸度は区間差がなかったが、糖度は仮植日や定植日が遅くなるほど高かった。以上から、慣行より早い10月上旬に定植することで増収が期待できる。ポット苗の鉢サイズおよび採苗日がマルチ春定植の「東京おひさまベリー」の収量に及ぼす影響について試験した。2021年7月下旬～9月下旬に5回に分けて9cmおよび10.5cmのポットに採苗し、2022年3月2日に黒マルチ9230敷設ベッドに定植した。本試験ではポット育苗において採苗日が早い苗ほど肥料切れを起こす条件となった。収量、果数ともに採苗日が遅くなるほど多く、鉢サイズで差がなかった。1果重は、鉢サイズ10.5cmで小さく、8月上旬～下旬採苗で小さかった。以上より、9月下旬採苗により慣行栽培と同等の収量となる。